

# DoKoネット

—同志社大学工学部同窓会報—  
第5号(2003)



# What's New!

2003年度第16回工学部同窓会リユニオン

2003年11月2日(日)

第1部 13:00~15:00 総会 京田辺キャンパス

(京田辺市多々羅都谷)

第2部 15:00~ 卒業年グループリユニオン

ー卒業年グループリユニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さいー

2003年度のリユニオン第2部は各卒業年グループごとにお集まり願いますが、特に5N周年(S23, 28, 33, 38, 43, 48, 53, 58, 63, H5, 10年卒業)の方々には特別に企画いただく予定となっております。

詳細は下記ホームページでお知らせします。

ホームページを開設しています

<http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>

(URLのはじめはwww1ですのでご注意ください)

このページは工学部からのお知らせと共に工学部同窓会リユニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただきます。

次号同窓会報”DoKoネット”第6号は2004年2月に発行いたします。

皆様の寄稿をお待ちいたしております。

表紙上写真:2002年度同窓会総会での山下正通会長の挨拶(横の絵皿はホームカムイングデー参加の記念品)  
表紙下写真:2003年10月竣工予定の京田辺校地情報メディア施設「同志社ローム記念館」(前方建物)と「情報メディア館」(後方建物) 11ページに詳細があります。

## 21 世紀に成長を、同窓会と工学部への夢

同志社大学工学部同窓会会長  
山下 正通

10 年間にわたり同志社大学と卒業生とを結ぶ 2WAY コミュニケーションの役割を果たされた“WILD ROVER”誌は昨年(2002 年 2 月)で最終号(vol. 21 まで年 2 回)とされ、その後は、在校生対象の「同志社大学通信 ONE PURPOSE」(130 号から年 4 回、4, 6, 10, 12 月発行)に発展的に統合されました。この自己撞着的情勢を踏まえて、伝統と誇りある同志社理化学館のレリーフ“18 Science 89”(京田辺キャンパスでは“19 Science 94”)のもとで人生を享受し巣立たれた加藤と五郎先生はじめ多くの先達の「碩学」を顧みて、我が同窓会も新しい会則の下に、今後の「工学部同窓会」の在り方を新しく卒業生毎年に選んでいただく同窓会委員の方々をはじめ卒業生の皆様と共に真摯に検討していきたいと思えます。なお、天声人語「朝日新聞」(平成 13 年 8 月 22 日)によると、“大学生 10 人のうち 10 人が「碩学(せきがく)」などの難しい言葉を知らなかった”という現代 IT 学生気質(かたぎ)のご時世であることを知らされて愕然としました。

“出藍の誉れ excel (surpass) one's master (teacher)”という言葉の意味は「より優れた弟子でも努力すれば師匠を超えることができる」ということです。その由来は性悪説を唱えた荀子(荀卿)の言葉《学は以て已(や)むべからず。青は藍(あい)より出でて藍より青く、冰(こおり)は水これを為して、水より寒(つめた)し》[学問というものは止まる事がないものである。青い色は藍(藍玉と呼ばれる染色の材料)から作り出すが、元の藍よりも鮮やかな青色をしている。氷は水から出来るものだが、水よりも冷たいものだ]から引用されたものです。この譬えから、「藍」は師匠であり、そこから作り出された「青」という弟子は元の師匠の「藍」よりも優れているという意味として“出藍の誉れ”という言葉が使われるようになったということです。我が国においても 21 世紀に向けて文科省が音頭をとって、「創造性豊かな世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点 Center of Excellence (COE)」の形成を推進することを目的とした「中核的研究拠点形成プログラム」が開始されています。(全国の採択状況は <http://www.osaka-u.ac.jp/kenkyu/coe.html> 参照)。今年度は同志社大学工学部の申請は認められず、新しく次年度に向けて申請準備中と伺っています。21 世紀 COE の拠点として、世界のトップとなるような幾多の“出藍の誉れ”の輩出を期待したいものです。

夢と希望を米国民に与えた第 35 代大統領ジョン・F・ケネディが、日本で最も尊敬する政治家として、米沢藩の構造改革を遂行し、財政を立て直した上杉治憲(鷹山)藩主を礼讃しました。《なせば成る なさねば成らぬ何事も 成らぬは人のなさぬなりけり》(鷹山)。《為す者は常に成り、行く者は常に至る》[その気になってやり続けなければ必ず成し遂げられるし、目標を定めて進み続けなければいつかはそこに到達できる。『曇子春秋』内篇・雑下]《為せば成る・・・》の由来に肖(あやか)って、我が「工学部同窓会」もスタッフ始め学内・学外幹事共々に 21 世紀への財政基盤を確立すべく、懸命な努力をしていますので、これからも卒業生の皆様のご信頼できるヒューマンネットワークでご理解を賜りますようお願い致します。

同志社大学名誉教授(1957 年工業化学科卒)

# 学科紹介

## 知識工学科

2002年度は1994年の知識工学科発足以来、学部から大学院までの全学年が揃った最初の年度(いわゆる完成年度)となります。現在、学部学生数は477名で、うち、新入生は102名でした。また、大学院生は前期課程の在籍者は76名、後期課程は7名で、それぞれ、進学者の数は36名と1名でした。また、学部卒業予定者は97名で、前期課程修了予定者40名、後期課程の博士(工学)の学位の申請者3名です。これらの卒業あるいは修了予定の学生諸君は全員就職先あるいは大学院進学が決まっております。特に、博士号の取得予定者はポスト・ドクターとして研究を続けることとなります。また、知識工学科発足当初より情報システム研究室で研究指導されてきました三森定道教授が2003年3月をもって退職されます。後任に新しい先生を迎えることとなります。

社会的に情報に関する技術者を多く育成することが望まれる中、知識工学科と連携して新しい学科「情報システムデザイン学科」が2004年度から設置される予定です。

新学科は、社会ビジネス情報システム、情報デザイン、情報学とナレッジマネジメント、センシングとコントロール、シミュレーションとバーチャルデザイン、ネットワーク情報システムの各分野の技術者を育成することとなります。知識や認知等の情報を担う知識工学科と連携して情報系の充実した工学部になります。これにあわせて、知識工学科としてもより充実したカリキュラムにするべく努力しています。

2000年度から始まった「知能情報科学とその応用に関する研究」のプロジェクトでは多数の成果が上がっており、講演会や研究会が誰でも参加できるオープンな形で数多く開催されています。関心のある方は、<http://www.afis.doshisha.ac.jp>を参照して下さい。

教務主任 川崎 廣吉

---

## 電気工学科・電子工学科

電気工学科・電子工学科では2002年度にはそれぞれ156名、139名の新生を迎えました。電子工学科の新入生には中国からの留学生が1名含まれています。電子工学科の新入生が少なめであったことには、日本のIT不況が少し影響しているかもしれません。一方、大学院電気工学専攻では80名弱の新入生を迎えました。近年不況のせいもあり、自分のキャリアアップをはかるためなどに大学院への進学希望が漸増しており、大学院電気工学専攻への進学は他大学または同志社大学工学部の他専攻に比べるとかなり狭き門になっています。それでも学力低下の声が聞こえてくるのは、時代の流れでしょうか。

就職戦線についてですが、大学院生については厳しい状況にも関わらず比較的順調であったようです。この点では卒業生の皆様のご活躍の賜物である部分が非常に多く、感謝致しております。学部生については、インターネットなどで情報を収集して、積極的に活動し、複数の内定を取ることが出来る学生さんと、やや消極的で、就職活動も遅れ気味になり、学校推薦に頼ってもなかなか採用が内定しない学生さんに2極化するような傾向も見られる

ようです。後者の学生さんの数はまだ少ないようですが、以前よりは増えてきているようで、就職委員の先生はご苦労されているようです。なお、来年度の就職委員は加藤利次教授です。

昨年度の長岡先生の紹介文にあるように、数学の梶原健司助教授が九州大学に転出され、今年4月から、その後任に近藤弘一専任講師をお迎えしました。近藤先生は工学部電気系の出身のOBです。これで電気系教室では、電力系統の馬場先生、電気回路の井上先生を含めて30歳前後の若い先生が3名となり、かなり平均年齢が若返りました。将来に期待したいと思います。

2004年度からは工学部には新しい学科が二つ誕生し、それに伴い、電気系では将来に向けて、学科の特色をどのように出すべきかを考える時が来ているようです。カリキュラムなども大幅な変更の必要があるかもしれません。そのような際には卒業生の皆様の率直なご意見をお聞かせいただけますようお願いして筆をおきます。

教務主任 渡邊 芳英

## 機械システム工学科・エネルギー機械工学科

機械系学科では、現在 1279 名の学生が在籍しています。その内訳は、機械システム工学科の1年生 130 名、2年生 121 名、3年生 234 名、4年生 153 名の合計 638 名で、エネルギー機械工学科の1年生 139 名、2年生 134 名、3年生 223 名、4年生 145 名の合計 641 名です。一方、大学院修士課程には1年生 91 名、2年生 92 名の合計 183 名が在籍しており、大学院博士課程には 14 名が在籍しています。機械系学科では、2000 年度に開始した両学科共通のカリキュラムにより数学・物理関係の基礎科目と、機械系の材力・熱力・水力・制御・機力の5つの応用科目群を徹底的に教育しており、4年生では大学院科目を一部履修できる新しい制度を設けました。さらに2003 年度からは大学院において Advanced English 科目を開講して専門英語教育の充実を図ります。

研究室体制は、2003 年度より材料・加工分野4研究室、熱・流体分野4研究室、工作・機力・制御分野4研究室、基礎教育分野(数学・物理)2研究室の体制となります。各研究室は以下のとおりです。構造力学研究室(藤井透

教授・大窪和也助教授)、金属材料科学研究室(御牧拓郎教授・宮本博之助教授)、応用材料工学研究室(今井田豊教授・長谷部忠司助教授)、成形加工研究室(片山傳生教授)、伝熱工学研究室(千田衛教授・稲岡恭二助教授)、噴霧・燃焼工学研究室(藤本元教授・千田二郎教授)、流体力学研究室(平田勝哉教授・舟木治郎助教授)、流体工学研究室(水島二郎教授・山口博司教授)、生産・工作研究室(青山栄一教授)、機械力学研究室(小泉孝之教授・辻内伸好教授)、制御工学研究室(原敬教授・横川隆一教授)、機械要素・トライボロジー研究室(坂口一彦教授・小林真造教授・松岡敬教授)、物理学研究室(高岡正憲助教授)、数理工学研究室(浦部治一郎教授・押目頼昌教授)。

なお、2003 年 3 月末をもちまして、原 敬 教授が停年退職されます。先生の長年のご功績に対して機械系教員一同、心より厚く御礼申し上げます。

教務主任 千田 二郎

## 数理環境科学専攻

本専攻は、工学研究科修士課程の独立専攻(学部学科を持たない専攻)として1998年度に発足してから5年目を迎えました。

院生は現在45名が在籍しています。その内訳は修士1年生が27名、2年生が18名です。工学部の諸学科出身の院生が多いのはもちろんですが、同志社大学の文系学部、同志社女子大学、さらには他大学出身の方たちも加わり、数理モデル(大宮眞弓教授、押目頼昌教授)、地球環境(林田明教授、鈴木博之教授、横山卓雄教授)、人間環境(松田正文教授、西郷顕達教授、山下正和教授)、の3分野では専任教員の指導を、またその他の分野では工学研究科の他専攻の先生方の指導を受けながら、環境関連のテーマで研究に取り組んでいます。また2年前からは専任教員による工学部生の卒論指導も行っています。

本専攻が修士を送り出し始めてから3年経ちました。このところの厳しい社会状況にもかかわらず、他専攻の就職委員会のご協力も得て、大企業からベンチャー企業ま

で多種多様な企業にこれまでほぼ100%に近い就職率を達成していますが、これからも就職先の開拓に努力して参る所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年9月に九州大学へ転出された梶原健司助教授に代わって、今年度4月から電気系所属の大宮眞弓教授を新しい教員スタッフとしてお迎えしました。いっぽう今年度末には、横山卓雄教授がご退職になります。先生はご専門の地質学研究に加えて、これまで長い間同志社大学の自然科学教育の中心的役割を担ってこられ、また数理環境科学専攻の設立にもご尽力いただきました。教育熱心な先生のご退職は本専攻にとって大きな痛手ですが、更なるご活躍とご健康をお祈りしたいと思います。

大学院研究科専攻教務主任 林 隆夫

# 学科紹介

## 機能分子工学科・物質化学工学科

2002年度に機能分子工学科では140名の新入生を迎え、在籍者は卒論生119名を含め総数592名、物質化学工学科では143名の新入生を迎え、在籍者は卒論生120名を含め総数570名になっています。また、2002年度は前年度卒論生の32%にあたる85名が大学院に進学し、工学研究科工業化学専攻の博士課程(前期)には158名、博士課程(後期)には新たに5名が加わり、11名が在籍して研究に励んでいます。大学はいま変革期を迎えておりますが、化学系においても今後どのような研究・教育体制にしていくかを検討しているところであります。また、この頃の厳しい社会情勢を反映して、就職もなかなか難しくなっていますが、卒業生の皆様の活躍と教員・在学生の努力で高い就職率を保っています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

昨年度は古川功先生、田中幹也先生と山下正通先生が定年退職され、山下先生の後任として稲葉稔先生が本年度着任されました。また、白川善幸専任講師が助教に昇進されました。以下に研究室および担当者を記します。

<機能分子工学科>機能有機化学(加納航治教授・小寺

政人教授)、高分子化学(丹羽政三教授・東信行教授・松本孝広実験講師)、有機合成化学(太田哲男教授)、有機化学(山下正和教授・田中義文助手・大西慶一郎実験講師)、物理化学(上野正勝教授・伊吹和泰助教授・土橋倫昭実験講師)、電気化学(田坂明政教授・稲葉稔助教授・竹村英昭実験講師)、無機合成化学(山口修教授・廣田健教授・芳仲捷実験講師)、数理解析(溝畑潔助教授)  
<物質化学工学科>粉体工学(日高重助教授・白川善幸助教授・下坂厚子実験講師)、移動現象(森康維教授・越村寛一実験講師)、計測分離工学(中島理一郎教授・塚越一彦教授・田村隆実験講師)、熱プロセス工学(立脇徳松教授)、生物化学工学(近藤和生教授・松本道明教授)、材料システム(高野頌教授・伊藤正行教授・仁科修治実験講師)、数理解析(堀内龍太郎教授)

なお、2003年3月をもちまして、越村寛一実験講師が定年退職、および田中義文助手が退職されます。長年に亘って研究室運営や基礎実験などに尽力を尽くして頂いたことに、心より厚く御礼申し上げます。

教務主任 上野 正勝

2003年度工学部就職委員

	担当者	就職委員室	連絡先
知識工学科	りきまる ひろゆ 方丸 裕	有徳館東館 YM-223	Tel:0774-65-6249, Fax:0774-65-6809 Email:js-koul@mail.doshisha.ac.jp
電気系学科	かとう としじ 加藤 利次	有徳館西館 YE-513	Tel:0774-65-6246, Fax:0774-65-6806 Email:js-kou2@mail.doshisha.ac.jp
機械系学科	こいづみ なかゆき 小泉 孝之	有徳館東館 YM-403	Tel:0774-65-6247, Fax:0774-65-6807 Email:js-kou3@mail.doshisha.ac.jp
化学系学科	おおた てつお 太田 哲男	至心館 SC-207	Tel:0774-65-6248, Fax:0774-65-6808 Email:js-kou4@mail.doshisha.ac.jp
数理環境科学	おおみや まゆみ 大宮 真弓	有徳館西館 YE-219	Tel:0774-65-6250, Fax:0774-65-6250 Email:js-kou5@mail.doshisha.ac.jp

就職関連資料室: Tel:0774-65-6240, Fax:0774-65-6805  
Email:jt-shshk@mail.doshisha.ac.jp

## 知的財産権部に配属されて

1998年知識工学科卒 満田 周一  
学部時代は、天文サークル(星の会)、テニスサークル、国際交流サークルをかけもちで入り、さまざまな業種のアルバイトを経験し、また、夏冬の長期休みは語学研修、海外旅行にいったりしていました。そのため、3回生から4回生にあがる時は、単位がぎりぎりでもう少しで留年するところだったのを覚えています。いろいろありましたがその中で印象に残っているのは、新島襄が学んだボストン郊外のアーモスト大学での語学研修(アーモストサマープログラム)に参加した経験は特に印象に残っています。アーモスト大学のチャペルで新島襄の肖像画を見た時は、日本から遠く離れたボストンで自分が同志社の学生であることを実感したのと同時に、新島襄の偉大さを感じました。また、そのプログラムで今でも連絡をとりあっている文系の多くの友達に知り合え、とりわけ法学部の学生と知り合ったことは今の進路を決定づけるものになったのかもかもしれません。大学院に進学して、将来の自分の職業のことを考えている時、新聞等でも知的財産に関する記事が数多く掲載され知的財産の重要性を感じ、法学部の友達と知的財産について聞いたり話したりしている内にますます知的財産に興味をもつようになり大学院での授業や研究(顔認識)と同時に弁理士資格の勉強も始めるようになりました。また、結局時間的な理由で数回しか出席できませんでしたが法学部で知的財産を研究されているゼミに飛び入りで入らせてもらったりもしました。もちろん、就職活動は知的財産権部志望で就職活動しました。就職活動中は、企業の知的財産権部で活躍されている同志社のOBの方と貴重なお話をいただきました。ということで今の会社に就職したのですが、

社会人になって、不運にも一年目は、第一希望の知的財産権部には配属されず、大学院で顔認識の研究をしたこともあってか、都銀、地銀で使用されているダイレクトスキャナ(非接触型スキャナ)に関わる画像処理のソフト開発(帳票識別、印鑑照合等)に使用されるカラー画像処理のソフト開発を担当することになりました。大学の時は、プログラムをあまりやっていたいなかったため、会社の先輩にかなりご指導していただきながら開発しました。そして入社2年目に運良く知的財産権部に配属されました。知的財産の仕事は、予想した通りの仕事で技術を深く広く取り扱う業務でした。仕事内容は、主に特許の権利化を図るため、特許庁に出願する書類(明細書)を作成する業務を主にしております。明細書作成時には、発明者と特許事務

所のスタッフ(弁理士)と知財スタッフである私で、どのような権利範囲の特許にするか打ち合わせをおこないます。その中で、できるだけ広い権利範囲にするため(他社特許に抵触せず、侵害発見が容易な特許にするため)、私の方から発明者にヒヤリングを積極的にを行い他社特許より強い特許明細書作成に勤め業務を遂行しております。また、特許庁から拒絶理由通知が届いた場合、その通知書に対抗すべく意見書、補正所を弁理士とうちあわせ書類を作成し特許庁に提出したりしています。その他にも、知的財産権入門の新人研修講師をつとめたり、詳しい記載はできませんが他社との係争処理も担当したりいたしました。今もあきらめず弁理士の資格の勉強をしており、仕事を少しはやく退社させていただき予備校にも通い勉強しています。しかし今思うと、大学で勉強してきたことが仕事内容まで決めていっているなど感じることもあります。というのも、扱う特許は主にOCR関連の画像処理関係を中心に、ソフトウェア特許、ビジネスモデル特許を扱っており、大学6年間の勉強内容がベースとなっているからです。ところで今、知的財産の重要性がますます高まっています。政府は、小泉首相が国会において施政方針演説において「知的財産国家戦略」を表明し「知的財産戦略会議」を設置し、「知的財産大綱」を発表するなど矢継ぎ早の施策を打ってきました。新聞紙上では、会社の元従業員が発明した特許に対して相当の対価を支払うよう元いた会社を訴えるという職務発明の記事が後をたちません。また大学・公的研究機関においては、知的財産を活用し、優秀なベンチャー企業の発信基地としての重要性が増しています。同志社OBとして、将来、知的財産の分野で大学に貢献できたらなど考えます。

沖電気工業株式会社 知的財産権部

## リエゾンオフィス

1951年電子卒/1953電気修 和田 元  
産官学連携推進の気運が高まる中、同志社大学におきましても社会との連携をさらに強化するための窓口としてリエゾンオフィスを2002年5月に設置いたしました。これまでの工学部・理工学研究所の産官学連携業務は、理工学研究所が窓口となって推進してまいりましたが、全国的にも大学の知的資産の重要性が認識され、全学的な取り組みが必要との判断から立ち上げた組織です。従いまして全ての学部・研究科・研究所における産官学連携の窓口業務を担当いたします。

本オフィス設置の目的は(1)社会と同志社大学との接

# ひとことエッセー

点・窓口となること(2)同志社大学の知的資産を公開し、研究成果を社会に還元することの2点であります。第2点につきましては、既に本年2月より同志社大学知的財産センターを設立し、工学部・理工学研究所のみでなく他学部・研究科・研究所の知的財産を管理する体制も整えつつあるところです。また、同志社大学一けいはんな産学交流会を定期的に開催しており、東大阪と同志社との連携につきましては皆様方の中にもテレビや新聞でご覧になられた方もおられる事と存じます。今後とも積極的な広報活動の展開を行っていく所存です。

すでにMOT(Management of Technology)プログラムの作成事業など文系プロジェクトも立ち上がりつつあり、同志社大学に特徴的な学部・研究科・研究所を横断する学際的な産官学共同事業も提案させて行きたいと考えております。さらに同志社大学の有する研究設備や人的リソースを社会連携・産業連携の場でご活用いただけるよう、新しい方策を探っていく所存ですが、是非とも卒業生の皆様方からもよき活動指針をご提案いただき、私どもの連携業務にご協力賜りたいと考えております。

実際の共同研究にご興味を持たれた先輩方は是非ご連絡ください。すでに同志社大学に存在する専門領域の産業化シーズのみでなく、皆様がお待ちのニーズに応えられる共同研究のシナリオ作りを目指します。同志社大学リエゾンオフィスは卒業生の皆様の組織でもあります。同窓の皆様からのお便りを心よりお待ちしておりますので是非お気軽にご連絡ください。リエゾンオフィスのホームページ(<http://liaison.doshisha.ac.jp/>)も用意しておりますのでご覧いただければ幸いです。

同志社大学リエゾンオフィス所長／工学部教授

「Liaison」とはフランス語の特徴の一つである語尾の子音が次の頭母音を結合して発音される連音を示すところから、「連絡担当」「つなぎ」の意味に用いられ、大学と社会との連携をはかる目的に用いられております。

## 選んだゼミと今の私

1966年度 機械II卒 船本雅巳

新井先生が昨年(2002年)11月にご逝去され、ご葬儀に参列させていただきました。ここに、皆様にご報告するとともに、あらためて先生のご冥福をお祈り申し上げます。ご家族のご意志で、卒業生への連絡をご遠慮されたとお聞きしております。先生は、私の卒論研究の担当教官で、当時は講師から助教授になられた頃だったと思います。私が新井ゼミの2期生で、前年度に設立された真新しいゼミでした。シャフトに圧入した歯車の歯元応力の解析、歯元を回転ローラで圧延した歯車の疲労強度の研究など、

歯車を中心とした研究をされておられました。私が新井ゼミを選んだのは、先生の研究内容がどうのこうではなく、先生が授業でご担当されていた材料力学が、私にとって他の授業より楽しかった、理解しやすかった、従ってこの新井先生を選んだという、すこぶる単純な理由だけでした。しかし、この単純な選択が、私の会社人生を決定付けてしまうとは思ひもよみませんでした。今出川校舎の講武館地下の新井ゼミを初めて訪れたとき、1期生の先輩たちにお会いしましたが、研究のテスト器具の製作、調整を先生とともにやられてきたこの先輩たちが、非常に大人びて見えました。この中のお一人は、今も仕事の上でいろいろお世話になっております。私の卒論テーマは、上述の「歯元を回転ローラで圧延された歯車の曲げ疲労強度の研究」でした。機械実習工場で、旋盤で歯車素材を作り、ホブ盤で歯切りし、圧延装置を取付けたフライス盤で歯元を圧延し、バルセータという、1期生達が製作した歯車曲げ疲労試験機を使って疲労テストするというものです。この時に使ったホブ盤が今の私の仕事そのものになってしまいました。若気の至りと言うか、思い込んだらこれしか無いという視野の狭さか、この新井ゼミでの歯車との関わりが、現在、(株)カシフジに勤務している最大原因です。その他、私のアルバイト先の社長、ゼミの友人の伝手もありました。ここでは、ホブ盤という歯車を作る工作機械、すなわち歯切り盤を開発、製造、販売し、主なユーザは自動車産業で、特にトランスミッション用歯車の生産に寄与しております。私は入社以来、設計開発に携わっておりますが、これしか芸が無いんでしょうね。私の周りには、新井ゼミならびにその後継者である青山ゼミ出身の後輩が頑張ってくれています。このようなご縁で、この数年、授業の一環として、毎年同志社の学生40名程度、当社を見学に来ます。田辺校舎を訪れたとき、卒論時代のホブ盤が実習工場に当時の姿のまま置かれているのを見て、学生時代を回顧する次第です。

(株)カシフジ 取締役技師長

## 社会へ出てからの同志社

1966年工業化学科卒 家森 祥一

昭和41年に卒業し、就職してはや38年になります。現在の勤務している親会社に卒業後4年目に転職しました。同志社で学んだ化学(技術職)から、営業職で仕事をする道を選んで、現在の自分がある。しかし、同志社の高分子研究室で学んだことが営業職の仕事に就いても、基本的な仕事のやり方の中では生かされてきたと思う。それは、仮説にもとづく実験の繰り返してから、仮説にもとづく現場(お客さま)への確認の繰り返しの、すなわち、実験が、お



お客様への確認の繰り返しに変わっただけで、あとは、成功するまで色々と施策を考えて実行(営業)するだけである。施策がうまくいかなければ、レビューをしっかりとやる。PDCAの繰り返しで実績に結び付けていく、技術職も営業職もななら変わらない、むしろ工学部卒業の方が、科学的営業ができて有利であると思っている。

私は、同志社大学のすばらしさは、学生時代より社会に出てからの方が、よさを感じている。当然、学生時代も今出川キャンパスの学園環境のすばらしさ、特に、各校舎の赤いタイルの外壁と緑の木々とのマッチした環境が好きであった。しかし、我々の年代は、高分子研究室での卒論研究は新理科学館建設のため、一時、狭くて汚いプレハブ校舎で丹羽先生に指導いただき研究をした、それも今から考えると、いい思い出となっている。

私は、現在の親会社に転職してから、東京の立川市をかきわきに鹿児島、名古屋、ほか東京以西の地方都市を転動してきました。しかし、地方都市への転勤のたびに、学生時代には一度も会ったことのない同志社の先輩たちが、慣れない町に転動してきた後輩のために、色々と面倒を見てくれたのです。同志社で勉強した後、地元に戻り地場の有力者として活躍している先輩がいかに全国的に多いかが同志社のすばらしいところであると思う。31才のとき鹿児島に転勤した時、同期の能勢隆義君(現在、日本PMC(株)常務)より大学の弓道部の先輩、川添亮一氏(S40年経済卒)を紹介いただいた。川添先輩からは、鹿児島は特に閉鎖的な所であり他府県の人にとっては、いかに地元の人たちと親しくなり、付き合っていくかがビジネスを行っていくうえで必要なことか、それには、地元企業の若手経営幹部たちが地域の社会奉仕活動および、経営の勉強をしている青年会議所に入会し、地場の人たちと一緒に活動することが必要ではないかと教わった。しかし残念ながら鹿児島では会社の都合で入会できなかったが、その後、36才で富山営業所長として赴任した時に富山青年会議所に入れていただいた。この富山での活

動が後に岡崎青年会議所で40才の青年会議所卒業まで、またその後、47才で子会社の販売会社社長になった時も、豊橋ロータリークラブで、その地域の人たちと一緒にやって地域活動を行ったことは、現在も大きな財産として残っている。

さらに、愛知県の名古屋、岡崎、豊橋で仕事をしていた中で、同志社校友会愛知県支部の方々にも色々とお世話になった。愛知県は、特に校友会活動が活発なお所で全国一とも言われています。毎年の総会には、校友約1000人が集まり盛大に親睦を深めている。私が販売会社社長として豊橋在住の約11年の中でも数多くの校友にお世話になった。仕事をしていく上でお世話になったのは、石原吉三郎先輩(S25年経済卒、元、(株)中部、会長)は、豊橋で私が社長をしていた会社のパートナー会社の関連会社社長であったことから、仕事のサポートをよくしていただいた。また、一昨年に亡くなられたが佐野清先輩(S28年経済卒、元、豊橋信用金庫、理事長)には、よく飲みにも、ゴルフにも誘われ連れて行っていただいた。先輩たちのおかげで地元の人たちとも親しくなった。

昨年6月に豊橋の販売会社社長を退任しましたが、11年間お世話になった地元の人たち、および社員との別れは非常につらいものでした。しかし、運良く奈良の販売会社社長として出身地(大阪)の関西に帰ってきました。この景気の中では奈良県下の市場環境も非常に厳しいものがありますが、私自身、仕事が順調に行ってこそ社会への奉仕活動、および財界活動ができるものだと思っています。バブル崩壊後の厳しい環境の中で、仕事も一生懸命に行い、そして、地域活動を行えることは、多くの人のご支援があってこそだと思っています。私自身も早いもので、今年60才になります、同志社の先輩たちが私にしてくれたことが、私も後輩に対して出来るようになっていなければならないと思っています。

奈良ゼロックス株式会社 代表取締役社長

## 御願い

同窓会年会費は2000円となっております。まだ今年度の会費を未納の方は是非ご理解いただき、下記的方式で、ご送金の御協力をお願い申し上げます。出来ましたら「UCカード集金代行」にてお申し込みいただければ幸いです。

### 工学部同窓会年会費 2,000円納入方法

1. UCカード集金代行 同封の預金口座振替依頼書に必用事項を記入し返送ください。
2. 郵便振替 00990-0-151193 : 同志社大学工学部同窓会
3. VISA, Master Card 同封のFax用紙にてお手続き下さい。
4. 銀行振込 南都銀行京田辺支店(店番740) 普通預金口座 218806  
口座名 同志社大学工学部同窓会 代表者 山下正通

★従来の同志社工学会の年会費とは異なります。

# OB会あれこれ

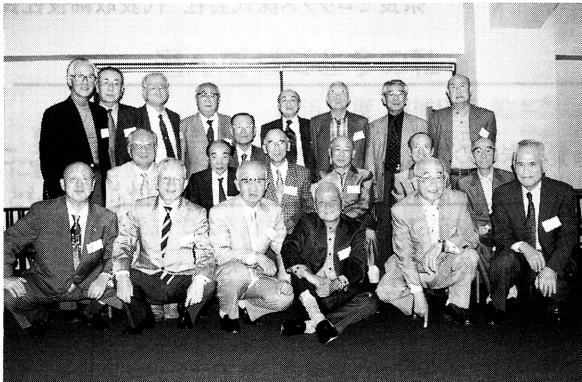
## 1952（昭和27）年工業化学科 卒業満50周年リユニオン

西山 富弘

私達は柳川鉄之助教授統括の下、諸碩学の先生方に御薫陶頂いた第二回卒業生であります。戦後未だ世況落着かず、就職難、物資不足の時期に船出した輩共でもありました。色々な不足、例えば参考書の不足、実験器具類の不備の他、先生方の講義は全て口述筆記ではありましたが、私達の教室はハリス理化学館（一階は実験室、二階は講義室）であったことが今では心の誇りになっております。三回生後期から同工館（現在の博遠館の隣）に教室が移りましたが、同級生の面々は太平洋戦争を経験した猛者、他専門学校卒等の編入学生の混ざる混成部隊でありましたから、一癖も二癖もある個性雑多の集団でありました。しかし学問・知識を吸収する意欲・姿勢は十分に保持していたと思っています。

本来理系であり人数も少なく（四十名弱）、全国的に見ても戦後理工系が大量に卒業した初期の状態であった頃と考えます。そのためか卒業後は各々の転勤、転社等が多くなかなか級会として集まれず、ようやく卒業後二十七年目と今回の五十年目の二回、懐かしい顔々に会えた次第であります。

京都在住の幹事の采配よろしく十月十二日祇園の名店「土井」で再会を果たし二十二名が参加した盛会となりました。開会時は五十年間会ったことが無かった級友も多く、各自名札をつけることにしたのですが、十分もすると忽ちその必要がなくなり、歓談の熱気の渦となり、舞妓さん、芸者さんが居るのもソッチノケになり、幹事として必々勿体ないコボス結果になったのは一面嬉しい誤算でもありました。しかし往右の猛者も秀才も五十年の波乱の内に悪戦苦闘もあつたのでしょうか夫々共斯界のトップとしてその任を果たし、現在はその殆どが自由人として円



満な人格を得、生を楽しむ境地になっているように見受けられましたが、未だ多分にエネルギーを保っているようで甚だ頼もしく覚えたのは幹事のみではなかったらと思います。

それもこれも我が同志社がもつ校風・徳性が直接・間接に我々に与えてくれた結果であろうかと、今改めて母校に深甚な敬意と感謝を捧げる次第であります。今後我々のクラスメートは生きている限り社会に何等かの貢献をすることでしょうが、萬感胸に抱いて懐かしい初秋の京都に散ってゆきました。工学部同窓会の益々の御発展を祈って御報告に替えさせていただきます。

（註）我々の化工27会は、東京27会、化学系関東OB会とは別の存在であります。

## 1957年卒業工業化学科同窓の 集まり（同化57会）

本郷富弥 鈴木治 浮村和雄 羽田五州 平岡登

過日（11月30日）第7回同化57会を滋賀県近江舞子ホテルにて総勢16名の参加を得て開催致しました。中には長い闘病生活から元気に回復され久し振りという者も居りました。当日は前日からの雨も上がり曇り空ではありませんでしたが、湖上は風も無く11月末としては暖かく我々一同を気持ち良く迎えて呉れました。

大津港11時出航の湖上遊覧船「ピアンカ」の乗船客は少なく、3階のラウンジは我々同窓生の貸切の舞台になりました。船内では参加できなかった人の近況報告返信を回覧、夫々ビール、コーヒーなどを飲みながら、心いくまで晩秋の琵琶湖の風景を楽しみました。中には第二次大戦中に近江舞子近くに疎開した者も居り、昔遊んだ砂浜を指差して懐かしい話に花が咲いていました。大津港出航後約2時間で、琵琶湖八景の一つ「雄松崎の白汀」近江舞子水泳場隣接の近江舞子ホテル棧橋に着船、下船後全員の記念撮影をしました。ホテルにて洋風会席「シルバーグルメ」に舌鼓を打ちつつ歓談、近況報告に終始しました。莫も酩酊となり次回開催を討議、前回（2000年11月、広島安芸グランドホテルでの初の一泊同窓会）から既に3名の物故者があり、「毎年しても10回位しかでへんで」との発言があり毎年の開催に決定、来年は大阪、神戸在住の方々にお世話願うことになりました。二次会のカラオケでは、有志が歌唱力を披露し、時を忘れて楽しみました。次回も全員元気で再会を約して解散する。尚橋本、原両先生には日程のご都合がつかず、ご出席戴けませんでしたこと残念でありました。

（出席者）浮村和雄、江積明男、小森慶久、鈴木治、鎌田輝、平岡登、保田智、竹野哲雄、築山昌史、中辻治彦、長谷部閑、羽田五州、本郷富弥、三好勝好、山下正通、吉藤茂光

## 1960(昭和35)年卒業(42周年)

### 電気科同窓会

2002年11月2日(土)に京田辺キャンパスにて開催しました。幹事として加藤行雄(関東担当),李家隆美(関西,東海担当),坂田睦子(女性担当),本宮恵(庶務担当)を決めて活動しました。名簿上では約70名ですが,連絡の取れる親しい人35名に声をかけました。21名が京田辺キャンパスに集まりました。校内の広さ(甲子園球場の13倍)と樹木の紅葉のすばらしさに一同びっくりし又感動もしました。工学部の電気系の見学には教務主任渡邊教授のご挨拶のあと大鉢教授の案内で電気系教室の研究室(もとの斎藤,大山,古賀,小川,岩本,滝山,谷口研究室と対応した説明で懐かしさと,設備の素晴らしさに感動し現場にいる研究生に個々に質問していました)と当時には無かった素晴らしい施設(電波暗室,材料解析室,クリーンルームなど)にびっくり,時代の流れを感じていました。夜はキャンパスに近いウエルサンピア京都で懇親会,料理を摘みながら我が人生を振り返り一言ずつスピーチをしているうちに酔いも周りあつちでガヤガヤこちでガヤガヤ昔ばなしに花が咲きアツと言う間にお開き

になりました。同窓会は毎年開きたいとの希望があり,開催日程や開催地などは皆さんの希望に添うことになりました,翌日3日は今出川キャンパスで同志社ホームカンパデーの行事と工学部同窓会総会に参加しました。



同志社大学工学部電気学科同窓会42周年卒業記念会(平成14年11月2日京田辺キャンパス)

(京田辺キャンパス理化学館前の階段での記念写真)

## 1962(昭和37)年卒業(40周年)

### 電気科同窓会

私達は今までに5年毎に同窓会懇親会を開いて来ました。昨年が丁度40周年にあたり,11月16日新島会館において,恩師の岩本先生,滝山先生,鳴海先生,小川先生,谷口先生,卜部先生,豊永先生にご臨席戴き,同窓生37名とともに,有意義で楽しい懇親会を過ごすことが出来ました。当日は記念写真のように,舞妓さん,芸妓さんに華を添えて戴きました。準備委員長十河,幹事は上西,下田,葛西,仲上,小西,松井,大田でお世話しました。

(新島邸をバックに記念撮影)



昭和37年同志社大学工学部電気学科同窓会 平成14年11月16日 於:新島会館

# 同窓会活動・リユニオン

## 工学部同窓会活動と第16回工学部同窓会リユニオンのご案内

同窓会幹事会

工学部同窓会活動は1992年3月に同窓会会則案を作成、「工学部同窓会設立準備委員会」発足、1994年12月同志社工学会評議員会において同窓会設立が承認され、その後、1996年3月に第1回工学部同窓会幹事会、第9回リユニオン(工学会と同窓会との共催)を開催し、2002年11月に第15回工学部同窓会リユニオンを開催いたしました。

総会にて同窓会会則の改正を行い、新しい方向性を見つけることができました。昨年度に工学会と同窓会の関係を工学会の千田会長石原幹事長と同窓会の前坂口会長と幹事長が話し合いまして、工学会は在学生を中心に、同窓会は卒業生を中心に会員を組織し活動することを原則として、両組織が協力して同志社工学部の発展に貢献していくことになりました。新しい会則で同窓会役員に各学科毎の同窓会委員を設け世話役の充実を図ることになりました。さらに、2003年度入学生が卒業する年の2006年4月に入会金を納入して頂くことを決め、大学に在学生の卒業年次に同窓会入会金の代理徴収をお願いすることが出来るようになり、同窓会の会費収入の安定化による財政的基盤を確立する方針を決めることが出来ました。工学会名簿につきましても、当面財政の点からは工学会が編集の点では同窓会が同窓会名簿として両者が協力して発行することになっております。以前の工学会と同様在学生と卒業生との連携を図り、新しい工学会と同窓会は年に2回程度の合同の懇談会を開催するなどして、連絡を密に取りながら運営していくことになっております。今までは教職員の先生方も同窓会の会員でしたが、新しい会則で会員を同窓生会員と特別会員に分類して、その特別会員になって頂くことになりました。同窓会費は同窓生会員のみが納入することになります。

今年の第16回工学部同窓会リユニオンにおきましても、昨年と同様卒業生の皆様がキャンパスに集い、クラスメートとの再会と出会いの中で、いっそう母校とのきずなを深めていただきたいと願っております。本年の「ホームカミングデー」は昨年までの今出川キャンパスと代わり、工学部のあります京田辺キャンパスを中心に11月2日(日)に卒業生歓迎のイベントを企画しており、工学部同窓会も同日リユニオン開催を予定しております。同窓会と致しましては、特に卒業5N周年の皆様には案内状送付用宛名ラベル印刷など、事務局でお世話させていただきます。また、当日ゼミ・クラブ等の同窓会には教室をご利用いただけますので、工学部同窓会事務局へご連絡くだされば教室予約等のご案内をさせていただきます。ホームカミングデーでは、毎年興味ある企画が計画されておりますので、お楽しみいただけたと思います。また、ご参加の皆様には大学が記念品も用意いたしております。

### 同窓会委員の選出・推薦をお願いします

新しい会則第7条によります同窓会委員を各系列、各学科、各ゼミナール毎に選出いただき、同窓会事務局まで御連絡いただきますようお願いいたします。

### 第15回工学部同窓会リユニオン報告

2002年11月3日に同志社大学のホームカミングデーに併せて工学部同窓会リユニオンを開催いたしました。本年の卒業後5年毎の節目になられる同窓生は昭和27年、32年、37年、42年、47年、52年、57年、62年、平成4年、平成9年の卒業生の皆様でした。本年も充分な準備時間を確保できなかったこともあり、第1部総会に引き続き第2部の5N周年記念同窓会卒業年グループリユニオンを企画していただきましたのは多くありませんでしたが、別の日に企画頂いた学年もありました。詳しくはホームページを通してご案内させていただきます。

本年度のリユニオンは約40名の参加を得て開催。第1部の総会には千田衛工学部長の挨拶で始まり、山下正通会長の議長により、昨年度の決算と事業報告、今年度の予算と事業計画等の議事が承認されました。同窓会会則の改正案も審議され、上記記載のように工学会と同窓会の関係の改善と2003年4月入学の学部学生さんが卒業される年度の2006年に同窓会の入会金(会費5年分)を大学を通して納入して頂く制度を導入する事を議決いたしました。引き続き、ホームカミングデーに参加いただきました。

# 京田辺キャンパス・工学部近況

## 京田辺校地情報メディア施設

### 「同志社ローム記念館」と「情報メディア館」

同志社大学京田辺キャンパス正門のすぐ右北側に2003年10月情報メディア施設が完成する。本施設は、法人施設と大学施設の2棟からなり、21世紀の高度情報化時代に向けて、メディア・フロンティアの同志社を象徴する施設として期待されている。

法人施設「同志社ローム記念館」は、国際中学・高校生を含む大学・女子大学の学生・生徒たちが自由にコンピュータやネットワークなどの最新技術を習得できる施設として、半導体メーカーのローム株式会社から多額の寄付をうけて建設される。情報発信、開発研究、交流を目的とし、階段状のオープン・テラス[劇場空間]、スタジオ機能、メディア・ラウンジ、プロジェクトルームなどを擁する地下1階、地上3階の建物となる。オープン・テラスの上方は大きな吹き抜け空間になっており、明るく開放的で、創造と交流にふさわしい環境を提供する。建物頂部は4つのグラスタワーで形成され、昼間はダイヤモンドのように輝き、夜間には内部からのライトアップで浮かび上がる。

大学施設である「情報メディア館」は、屋外テラスなどの共有スペースで「同志社ローム記念館」と結ばれたシームレスな環境を提供する。演習室や情報処理実習教室などを擁するこの4階建の施設は、正課授業での使用を目的とし、最上階の遠隔講義室では今出川キャンパスや他大学などと結んだ授業を可能にするなど、情報機器を駆使した授業に対応できるさまざまな工夫が施される。

この2つの施設は、ITの進展により生み出された情報技術を研究の場から教育の場に移し、メディア・リテラシー技術を駆使して、多彩で高度な展開を見せる情報時代に適応した人材を育成することをめざして計画が進められてきた。本学の建学の精神を、新しい時代に展開し、学びの「知的好奇心」を「知的探求心」に進化させる施設として利用されることが期待されている。本年11月の京田辺キャンパスでのリユニオンの際にはご利用頂ける予定。

### 京田辺教員ラウンジ棟(仮称)の竣工

京田辺キャンパス正門の左入ったところに、京田辺教員ラウンジ棟(仮称)が2003年4月末の完成を指して、外観を見せ始めております。2階建のこの建物の交流ロビーは学生が自由に出入りでき、コリドールでは学生と教員の自然なふれあいが期待できます。また、従来の囑託講師の控え室が拡張されました。これらを集約することにより学生と教員の交流が一層活発になることを目的としています。棟内には学生との交流スペースのみならず、相談や指導の場として面談ブースを設けています。

### 新工学部長に39年電気卒の石原好之教授

工学部教授会は工学部電気工学科教授(1964年3月電気工学科卒業)を選出した。石原新工学部長は卒業と同時に岡山大学工学部助手となり、1981年4月岡山大学工学部助教授、1981年9月同志社大学工学部助教授として母校へ、1985年4

月同志社大学工学部教授となり現在に至る。任期は2003年4月1日より2年間。

### 2004年度から2学科誕生

#### 【情報システムデザイン学科】

(入学定員100名、収容定員400名;2004年4月1日より新設)  
これからの社会は、あらゆる分野で情報システムに大きく依存し、コンピュータや通信に関する知識や技術と共に、社会的ニーズと経済的ルールに基づいた情報システムのデザインに関する研究・開発と教育が必要不可欠です。しかし、これまでの情報システムは、ややもすれば非効率な人間の作業を置き換える形で開発・設計されてきました。しかしながら、これからの情報システムは「人間中心」、「黒子として全産業・全生活を陰で支える」、そして「人間とコンピュータが補い合って、ともに成長する」ものでなければなりません。これらが実現できれば、情報システムは社会のありようを変えていき、やがては情報システムという単独の「もの」がなくなり、すべての「もの」の属性として、あるいは性質として情報システムの機能が組み込まれることになります。こうして、人々は新しい社会の豊かさを手に入れることができるようになりますと考えられます。このような社会的要請にこたえるため、コンピュータを強力なツールとして使いこなす能力を有すると同時に、豊かで活力のある社会を生み出すために、生活、ビジネス、そして生産の各分野で新しいコンセプトを提案し、高度な情報処理機能を持ち、人間の創造活動を支援するものを情報システムという形で具現化し、広く展開できるデザイナーとしての素養を有するエンジニアの養成を目的とし、「情報システムデザイン学科」を設置します。

#### 【環境システム学科】

(入学定員50名、収容定員200名;2004年4月1日より新設)  
地球規模の環境問題や人間社会と工学との関わりについての認識が深まるなか、人間の豊かなくらしを創造し、支援する新しい科学技術の発展が望まれて居り、新しい時代の理想的な人間のくらしを創造するためには、地球環境、生命環境や生活環境についての理解を深めるとともに、環境に配慮した産業技術の創成、福祉や介護を含めた人間生活支援技術の開発などを推進する必要があります。2001年8月に提出された科学技術・学術審議会の研究計画・評価分科会報告「地球環境科学技術分野における当面の研究開発の推進に関する考え方について」では、環境問題に関わる多角的な人材の育成が一層強く求められ、人材の育成のために教育カリキュラム、若手研究者の育成方法等を含め長期的視点をもった一層の努力が必要であることが強調されています。このような社会的要請に応えるため、地球環境システムに関する知識を身につけて多様な環境問題に対処できる技術者と、人間環境に関連する科学の基本を理解してより良い人間生活の環境設計に携わる人材の育成を使命とする「環境システム学科」を設置します。

# 同窓会会則

## 同志社大学工学部同窓会会則

### 総則

- 第1条 本会は同志社大学工学部同窓会(以下同窓会と略す)と称する。
- 第2条 本会は会員相互の親睦を厚くし、同窓生と同志社大学工学部(大学院を含み以下工学部と略す)の双方の発展に貢献することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。
1. 同窓生との連絡および広報活動
  2. 同窓会報および名簿の発行
  3. 同窓生懇親会(リユニオン等)の開催
  4. 工学部との交流に関わる事項
  5. その他必要と認められる事項
- 第4条 本会事務局の設置場所は、同窓会幹事会において決める。

### 会員および会費

- 第5条 本会の会員は、同窓生会員(同志社大学工学部卒業生(大学院および旧工業専門学校を含む)、学生として在籍した者)、および特別会員(同窓生会員以外の工学部の現教職員、元教職員および幹事会で認めたもの)とする。同窓生会員の会費金額は総会で定め、その納入方法は施行細則による。

### 役員と幹事会

- 第6条 本会に会長1名を置く。会長は総会において選出する。また本会に幹事長と会計幹事を置く。幹事長と会計幹事は幹事会において選任する。
- 第7条 本会には、各学科において互選された各学科数名の学内幹事および数名の学外幹事、会計監査を行う監事2名、各卒業年度毎に同窓会委員若干名を置く。
- 第8条 会長、幹事、監事の任期は、原則として2年とし、再任を妨げない。幹事等は、自己の都合により辞任する場合、幹事会に後任者を推薦できるものとする。
- 第9条 幹事会は、会長と幹事より構成し、幹事長も

しくは会長が、幹事会を召集する。

- 第10条 幹事会は、毎年度の事業計画書・事業報告書(予算、決算報告を含む)を作成し、事業を行う。
- 第11条 幹事会議事録、事業計画書、事業報告書は本会事務局に保管する。

### 総会

- 第12条 本会は原則として年1回総会を開催する。
- 第13条 総会は会長がこれを召集し、議長を務める。
- 第14条 次の事項は総会に報告する。
1. 前年度決算・事業報告
  2. 当該年度の予算・事業計画
  3. その他幹事会で必要と認めた事項
- 第15条 総会の議事録は本会事務局に保管する。

### 付則

1. 本会の会則の変更は幹事会で起案し、総会で承認を得る。

2002年11月3日改正

### 施行細則

- 第1条 (会費) 同窓生会員の年会費は2,000円とする。
- 第2条 (入会金) 同窓生会員は卒業年に入会金として10,000円を納入しなければならない。入会金の徴収は、同志社大学に委嘱する。入会金は卒業後5年間の年会費に充当する。
- 第3条 (工学会終身会員の会費) 工学会終身会員である同窓生会員の会費は工学会との協議が終了するまでは第1条に従うものとする。

付則:この細則は大学との事務手続きが完了した時点で有効になるものとする。

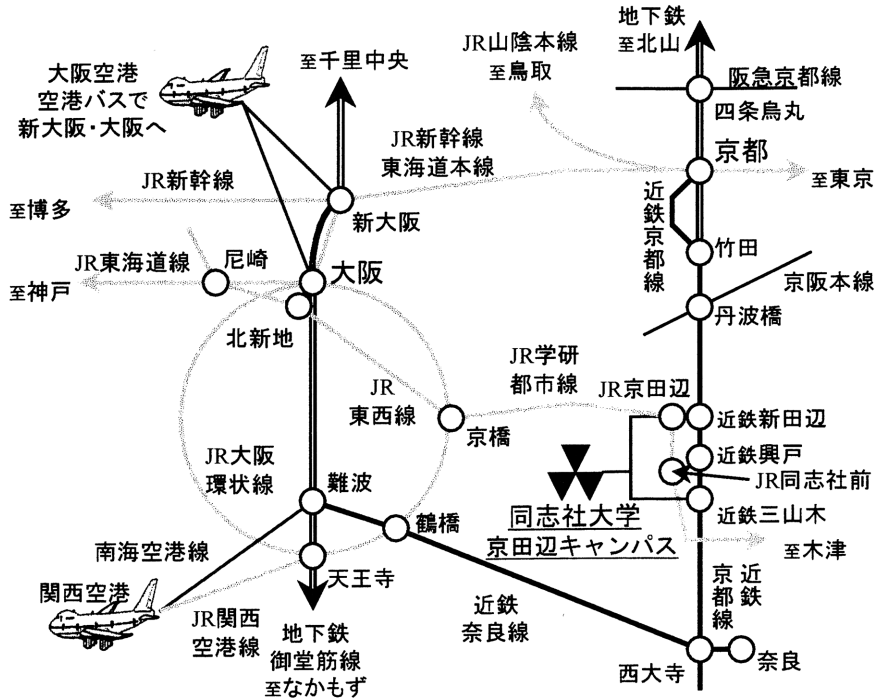
2002年11月3日制定

## 工学部同窓会幹事

		氏名	卒業年	所属
会長		山下 正通	S32 工化	同志社大学名誉教授
学外幹事	電気系	上西 勝也	S37 電気	園田計器工業(株)
		藤原 義博	S39 電気	松下電器産業(株)
		橋詰 源治	S43 電気	(株)橋詰気工業所
	機械系	小林 正義	S45 機械, S47 修機械	(株)堀場製作所
		大久保 稔	S56 機械, S58 修機械	ヤンマーディーゼル(株)
		福永 浩	S59 機械, S61 修機械	MMCコベルコツール(株)
		瀧 高弘	S62 機械	出向 三菱マテリアル
		篠木 俊雄	S61 機械 II, S63 修機械	ダイヤモンドマチック
		深見 洋司	H1 機械 II, H3 修機械	三菱電機(株)
	化学系	中山 仁郎	S39 工化, S41 修工化	川崎重工業(株)
		堀内 健一	S49 工化	日本ニューマチック工業(株)
		湯浅 智	S53 工化, S55 修工化	ニッタ(株)
		中村 清己	S55 化工, S58 修工化	日新電機(株)
				宝塚市立安倉中学校
学内幹事 (幹事長)	知識 電気系	渡部 広一		hwatabe@mail.doshisha.ac.jp
		大鉢 忠		tohachi@mail.doshisha.ac.jp
	機械系	長岡 直人		nnagaoka@mail.doshisha.ac.jp
		藤井 透		tfujii@mail.doshisha.ac.jp
(会計)	化学系	青山 栄一		eaoyama@mail.doshisha.ac.jp
		塚越 一彦		ktsukago@mail.doshisha.ac.jp
監事	(前会長) (前幹事)	小寺 政人		mkodera@mail.doshisha.ac.jp
		坂口 一彦		同志社大学工学部
		中村 成男	S42 機械	(株)堀場製作所
前幹事 & 前監事	知識 電気系	芳賀 博英		同志社大学工学部
		中野 恵二	S55 電子	富士通テン(株)
	機械系	大田 建久		同志社大学工学部
		戸高 敏之		同志社大学工学部
		汐見 知行	S45 機械 II	三菱自動車工業(株)
		辻 克巳	S45 機械 II	住友電気工業(株)
		田中 達也	S58 機械 II, S60 修機械	(株)神戸製鋼所
		千田 二郎		同志社大学工学部
		平田 勝哉		同志社大学工学部
	化学系	米澤 徹	S40 機械	ヤンマーディーゼル(株)
		東城 哲朗	S51 工化, S53 修工化	東洋炭素(株)
		山口 修		同志社大学工学部
		近持 隆	S41 工化	パクセルインターナショナル(株)
		加納 航治		同志社大学工学部
		田中 義文	H3 工化, H5 修工化	尼崎化学合成(株)

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>

工学部同窓会ホームページアドレス <http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>



## 同志社大学 京田辺キャンパス

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3

工学部・工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800

理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0774-65-6804

同志社大学工学部同窓会へのご質問、ご意見あるいは  
本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。  
同窓会事務局あてご自由に連絡、投稿下さい。

2003年3月22日発行

同志社大学工学部同窓会

発行者: 山下 正通

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学工学部内

工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850

印刷: (有)木村桂文社 Tel:075-381-9784 Fax: 075-381-1510